
幸せ...

桜実保乃佳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幸せ…

【Nコード】

N7858K

【作者名】

桜実保乃佳

【あらすじ】

黒の組織を倒した後の話です

第一話

黒の組織を潰してから1年後…

灰原が睡眠をとらず学校も休まずに解毒剤の完全版を完成させた…

俺は最初、驚いた

「ええええええ！！！！！」

と大きい声で

おっちゃんも起こしてしまっくらの声で…

朝食を作っていた蘭も

「どうしたの！？コナン君！！！」

と飛び出してきたくらい

俺は

「蘭姉ちゃん！」

僕、いきなりお父さんとお母さんが日本コッチに戻ってきて…

それで帰らなきゃいけないんだ…。」

「え…??？」

カランカラン…

フライパンを落とす蘭…

「コナン君、帰っちゃおうの?」

「うん…。」

「今まで有難う…。」

「手紙、送るから…。」

「元気でね…。」

「コナン君…。」

ポタツ…

蘭の涙が落ちる…

「蘭…姉ちゃん?」

蘭は涙をぬぐって

「何してるの??」

「早くお母さんのところに行かなきゃ…。」

と無理な笑みを作る…

『蘭…。』

「うん…元気でね。」

「蘭姉ちゃん…。」

俺はそういつて探偵事務所を後にした…

蘭の光る涙を見て…

『待っててくれ…
もうすぐ真の姿で…』

俺は手を強く握り博士の家へ向かった

その途中に本当の俺の家によって

〈博士の家〉

ピンポーン

「工藤君、待ってたわよ…。」

灰原が出てきた

「灰原、大丈夫か??」

灰原はスゴク疲れた顔をしている

「何とも無いわ

それよりコレ…

完全版よ…。」

灰原はそういつて俺に解毒剤を渡した

俺はそれを受け取った

「30分しても来なかつたら様子を見に来てくれ…。」

地下の部屋借りるぜ…。」

灰原は「わかった」と言つて俺は地下の実験室に入つていった

第一話（後書き）

この目線はコナン目線です!!!

次は哀ちゃん目線で書こうと思います!!!!

完結までよろしくお願いします!!!

平成22年4/8 Happy & Lucky

第二話

私はAPT X 4 8 6 9を完成させた…

いや…正確に言えばしていたかな…

最初、私は彼の^{「コト」}を興味深い素材としか思っていなかった

ケド、時が経つにつれ私は彼の^{「コト」}…

好きという意味ではないけれど特別な存在にしか見えてこなくて…

6

解毒剤を完成させても渡す気にはなれなかった…

でも、そう思っ^ていても渡すときは必ず来る…

だから…

渡す^ぞるを得なかった…

昨夜、私は研究室で泣いてしまった…

博士が覗いていたとも知らずに

涙が枯れそうになった…

でも寂しい気持ちがだんだんこみ上げて…

そして今日…

私は決心して彼に電話コナンを掛けた…

電話を掛けた後に私は思った…

『やはり私には幸せは来ないんだ』と

そう思うと自分がかい…

色々考えていると工藤君が来た

私は解毒剤（APT X 4 8 6 9）を渡した

そして彼が研究室に降りていくのを見届け

自分の中で別れを告げた

さようなら…工藤…いえ、江戸川コナン…

そう別れを告げた…

それから2・30分後…

研究室の扉が開いて彼が出てきた…

第二話（後書き）

どうでしたか???

次回もヨロシクです

平成22年4/9 Happy & Lucky

第三話

俺は灰原の作ったAPTX4869で江戸川コナンから工藤新一に戻るコトが出来た

そして服を整えてリビングへと続く階段を上り

リビングの扉を開けた

すると

「どーやら成功したようね…。」

と灰原が来た

俺はそのときあるコトに気付いた…

「オメーは宮野志保に戻らねーの？」

灰原は宮野志保には戻ってはいなかった…

「ええ…。」

宮野志保に戻ったって家族の1人もいないうえに思い出なんてないし…

灰原哀として生きていくわ…。
それに貴方の経過観察の様子も見なきゃいけないし…
何かがあったとき私が同じ薬を飲んでたら
私も同じ副作用が出るとも思いかねないしね。」
と答えていた…

俺は「そうか…。」と答えるしかなかった

そして

「じゃあ、俺は蘭のところに行くから…
今まで有難う…。」

そしてこれからもよろしくな。

灰原！！！！」

お礼を言っつて玄関に向かった…

そのとき俺は見てしまった

彼女（哀）の目からこぼれ落ちた透明な涙を…
しずく

俺は阿笠邸を後にした

そして行き先は毛利探偵事務所…

第三話（後書き）

こんばんわ!!

哀が泣いてしまった!!（泣かせた本人）

これからもヨロシクです

平成22年4/9 Happy & Lucky

第四話

今日は何だかいい予感がした…

アイツ（新一）が帰ってきそうない予感が…

たぶん気のせいだと思っけど…

そんな気分でいるともうお昼…

コナン君が帰ってから時間が経つの早いな…

お昼はコナン君の大好きなハンバーグを作ってあげようと思ったのに…

もう会えないなんて…

私は昼食の準備に取り掛かろうとすると

「蘭!!!」

俺は麻雀に行つて来るぞ!!!」

お父さんがそついい残して家を出て行った…

これだからお母さんに逃げられちゃうのよ

そう思いたため息をついた私…

昼食を作り終わり食べようとした

昼はカレー…

結局コナン君がいないからハンバーグはやめた…

一人で食べるのは何日、いや何年ぶりだろう…

コナン君と食べる予定だったから少し多い…

全部片付くかな???

そう思いながらもカレーを口に運ぶ

すると

ピンポン

探偵事務所のインターホンが鳴った

『お客さんかな??』

と思いつつ私は食べようとしていた手を置いて探偵事務所に向かった
階段を下りて

「あの…。」

すみませんが…

父は今はいなくて???

し・新一!!!!!!!!

新一がいた…

夢じゃない!?

新一も私に気付き

「蘭。

元気にしてたか??」

新一は白い歯をみせてニカッと笑う…

「バカバカ!!」

今まで何処行ってたのよ!!」

「ちょっと蘭に頼みごとがあるんだ…。」
「
と言ってきたから相談に乗った

そして相談にのった後

「蘭…

話がある…。」

「え????」

第四話（後書き）

次回も頑張ります!!!

平成22年4/9 Happy & Lucky

第五話

俺は蘭に部屋の中に入れてもらった

蘭は

「適当に座って…。」

といったから俺は言われたとおりに座った

蘭も座って

「話って何???」

と聞く

勿論笑顔で…

まあそうだコイツ（蘭）は何も知らないのだから…

「蘭、これから話すコトは普通の人間には有り得ないコトで信じて言ってもなかなか難しいコトだ…。」

聞いてくれるか？」

蘭は承知した…

俺は話した

トロピカルランドで何があったか

どうして俺が江戸川コナンになったか…

そして話し終わった後

「大変だったのね…。」

ケド何で!?

何で話してくれなかったの!?

私、新一の力になりたかった!!

頼りなくても!!

新一と一緒に戦いたかった!!

何で…。」

蘭は今にも泣き出しそうだった

俺は少し黙った…

そして

「俺はたった1人の恋人を巻き込みたくなかったんだ…。」

蘭、わかってくれ…。」

と俺なりに謝った

蘭はすこしびびくりしていたが

「ありがとう…。」

と笑顔になった

俺は蘭の笑顔を見て安心しつられて笑顔になった…

第五話（後書き）

こんばんわ!!

書いてるコトが意味不明でしたが…

これからもよろしくです

平成22年 Happy & Lucky

第六話

私は、今、米花公園に来ている

蘭さんに呼び出されたから

私が公園のベンチに座って蘭さんを待っていると…

「哀ちゃん!!!」

蘭さんが来た

私はベンチから立って軽くお辞儀をした

蘭さんもベンチに座り私も座りなおした

「単刀直入に聞きますが話って何でしょう?」

と私は聞いた…

「うん。。」

新一から聞いたんだけど哀ちゃんって私のコト嫌ってるの???

ゴメンネ…。

変なコト聞いちゃって…。」

怖い…

答えるのが…

ケド答えなければ…

「私は…

蘭さんを嫌ってないって言ったらウソですけど

嫌いで嫌ってるというわけでは…。」

私は…

私はなぜ蘭さんを選んでいたのか…

「じゃあ、どっしって???」「

聞かれた…

もう答えるしかない…

「似てるのよ…。」
「貴女が私の姉に…」

「ええッ!?!」

ほらね…

驚くでしょう???

「蘭さんも知ってますよね???
10億円の時の事件。
広田雅美…。」
「私の姉なんです…。」

「ええッ!?!」

もっと驚く

「どう言うコトなの!?!?」

「私の姉の名前は偽名なんです…。」

本名は宮野明美…

私は宮野志保…。

工藤君からもう聞いているんでしょうけど私はあの薬の考案者…

つまり工藤君を幼児化させたのはこの私なんです…。

ごめんなさいね…。」

私は謝った

けど彼女はもう許してくれないわね…

そう思っていた

けれど

「つらい思い、沢山したんだね…。
私に話してくれて有難う。
私はお姉ちゃんじゃないけど
泣いて良いよ…。
私をお姉ちゃんだと思って…。」

そういつてくれた…

私はその言葉を聴くと

『お姉ちゃん…。』

気持ちがかみ上げてきた…

その後、私は蘭さんに飛び込んで泣いた…

気のすむまで…

第六話（後書き）

こんにちわ

哀ちゃんじゃない哀ちゃんを書いてみました…

かなりキャラ違いました…

評価・感想お願いします！！

平成22年4/11 Happy & Lucky

第七話

私は蘭さんと話した後、蘭さんに送ってもらった

私はお礼を言っ^{ウチ}て阿笠邸に入った

博士がいない…

留守かしら???

そう思った

さっきの思いがこみ上げてきてまた少し泣いてしまった

少し時間が経ち落ち着いたのでコーヒーを入れて飲もうとした…

そのとき

ピンポン

インターホンが鳴りそれと同時に

「邪魔すんで ツ!!!」

と大きな声がして1人の男性とその付き添いと思われる女性が入ってきた

彼は探偵で工藤君の良きライバルでもあり親友の服部平次さんと妻の服部和葉さん

私は彼の前に行き

「邪魔をするなら帰ってくれないかしら…?」

睨んだ…

「そ、そんなに怒るなや…。」

彼は少し引きつった顔になった

「ゴメンなあ…。」

「このアホが行こうゆつて聞かんねん…。」

横から妻の和葉さんが謝ってくれたわ

私はまた彼の方を見て

「幼児以下ね…。

人の都合を考えないでくるなんて…。

和葉さんの方がよっぽど大人だわ…。」

と言っただけだわ…

彼は赤くなって

「ガキにガキ言われたくないんじゃ…!

ボケエエ

ツ!!!!!!!!!!」

と叫んだわ

私も和葉さんも耳をふさいだのに鼓膜が破れそうだったわ

たぶん隣の家に住んでいる新・工藤夫妻にも聞こえていたでしょうね…

聞いてないと思うけど彼ら、結婚してたのよ…

話してるうちに扉が開いて

「何かあったのか!？」

と噂の工藤夫妻が到着したわ

そこで彼らの反応は…

まあ、いつもの様に「何しに来たんだよ!？服部!！」なんて言う
でしょうね

と思っていたけど…

「服部来てくれたのか!！」

「和葉ちゃん来てくれて有難う!！」

と反応が違った…

「え? ? ?」

私はその場で少しだけ啞然としていた

第七話（後書き）

あと、2・3話で完結します

完結するまであと少しですがよろしくお願いします

平成22年4/11 Happy & Lucky

第八話

私はその場で少し唾然としてしまった

「どう言ひますか?」

私は恐る恐る聞いてみた

「これは、ちょっとしたパーティーをしようと思って…」

蘭さんが言った

「パーティー???」

「そうよ

哀ちゃん、貴女のね」

ニコッと笑って言う蘭さん

「誕生日おめでとう…。哀くん。」

そういつて花束を私にくれた…

「ありがとう。博士。

ありがとう」

私は泣いてしまった…

何でだろう…

今日で泣くのは3回目…

それでも皆、優しい笑みを浮かべている

嬉しい…

これが幸せなんだ…

お姉ちゃん…

聞こえていますか??

私は今、スゴク幸せです…

これからも天国で見守っていてね…??

第八話（後書き）

あとはキャラ懇談or後書きで終わりにします

平成22年4/12 Happy & Lucky

キャラ懇談or後書き(前書き)

後書きもキャラ懇談形式でやらせていただきます

キャラ懇談or後書き

Happy「こんばんわ

皆さん、ココまで読んでくれて…。」

全員「ありがとうございますッ!…!」

哀「Happyさん??」

何でこんなに私が泣かされているのかしら??(殺気)「

Happy「いや…(汗)

ただ面白いかなと…。」

哀「何ですって…(怒&殺気)「

Happy「すみませんッ!…!」

哀「わかればいいのよ…。」

新一『相変わらず可愛くねーな。』

平次「よっ!!この話楽しめたか!?

まあ、俺の出番が少ないっちゅーところが気に食わんケドなあ

…。」

和葉「何ゆーてんねん!!」

アンタの事件の話聞いて楽しい人なんかおる訳ないやん!!」

平次「なんやと!!ボケ!!」

蘭「まあまあ…、2人共喧嘩はやめてさ…。」

青子「うんうん

「ココは楽しくやろうよ!」

快斗「そうだぜッ」

Happy「次の作品はもう考え付いており、哀ちゃんを主役にした話を書くことと思っております!」

哀「私が主役なのが多いわね…。」

新一「いいじゃねーか。」

蘭「そうよ!」

哀「泣かせないならいいわよ…。」

Happy「許可が出てよかった!」

「許可が出なくても書くつもりだけど…。」

快斗「そうだったんだ!俺が主役の話も書いて!」

Happy「時間があれば…。」

平次「黒羽!!ズルイぞ!!」

「作者!俺が主役の話もよろしゅうな!」

Happy「はいはい。」

新「」では、
「

全員「また会う日まで!?!?!」
「

Happy」応援有難うございました!?!?!

巻き込まれていく人々もよろしくお願ひします!?!?!」
「

キャラ懇談or後書き(後書き)

有難うございました!!!

平成22年4/12 Happy & Lucky

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7858k/>

幸せ...

2010年10月8日22時57分発行